

令和 2年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R02年度	R03年度	R04年度
活動 指標	舗装修繕工事延長	k m／年	目標	0.40	0.40	0.40
			実績	0.10	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	整備率（延長％）	％	目標	100.00	100.00	100.00
			実績	25.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	市民から多くの要望があり必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	道路管理者が実施することが責務である。
	手段の妥当性	A 妥当である	現在の手段が一般的である。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	年々舗装修繕の要望が増える中、緊急性・必要性を考慮し、修繕計画に基づき予算の範囲内で施工を行っている。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	市内全域で舗装された市道を対象としており、道路管理者が実施すべき内容であり公平性は高い。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	交通安全性の向上・危機回避が図られた。
進捗度	事業の進捗	C 遅れている	経年劣化している舗装道路が多々ある中、本事業が導入されたのが近年であり、限られた予算の範囲内での対応となるために、市内全体路線における進捗率は低い。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
本事業は老朽化した舗装道路の修繕をまとめた距離で対応できることから、必要性・有効性の高い事業である。生活道路については、昭和40年代から50年代にかけて、舗装新設を行った箇所の老朽化が特に激しく、良好な交通環境を目指すためには適切な改修整備の計画策定が重要である。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
市道路修繕計画について、緊急性・必要性を考慮し、数年ごとに見直しが必要と思われる。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容 道路の老朽化に伴い舗装補修の要望が増加する中で、経済性・耐久性などを考慮しながら対応していく。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	